

大阪府立豊中高等学校 学校運営協議会 議事録

校名	府立豊中高等学校
校長名	中原 光子

開催日時	令和 6年 2月 16日(金) 15:30~16:30
開催場所	大阪府立豊中高等学校 校長室
出席者(委員)	山崎彰委員、須賀寅充委員、後藤崇志委員、田中明美委員、秋山馨澄委員
出席者(学校)	中原光子校長、山下尚紀教頭、宮野淳一首席、志方洋介首席、城台祐樹指導教諭
傍聴者	無し
協議資料	(資料1)令和5年度 取組の成果と課題 (資料2)令和6年度 学校経営計画(案) (資料3)令和5年度学校教育自己診断アンケート結果(生徒、保護者、教員) (資料4)令和5年度学校教育自己診断分析資料(生徒、保護者)
備考	

議題等(次第順)
1 校長挨拶
2 協議・報告
(1) 令和5年度 学校経営計画・学校教育自己診断について (2) 令和6年度 学校経営計画について (3) その他
協議内容・承認事項等(意見の概要)
<令和5年度 学校経営計画・学校教育自己診断について> ・経営計画の評価は数値が出揃い次第みていただく ・ほとんどの行事ができるよかったです。長いコロナを経てきた子どもたちが抱える新たな問題も見えた。 ・海外研修(英国等)実施でしたが、連れて行けなかった生徒もいる。保護者からの要望で枠を増やしてほしいというものがあったが、ホームステイ先の数に限りがあるので難しい。さらに、現在考えられないくらい価格が高騰している ・65分授業実施が決まり、現在来年度の移行に向けて動いている。また、カリキュラムも検討を重ねている ・課題研究の異学年交流は、今年度は3年2年だけでなく2年1年の交流もできた ・SSHでは、外部に向けての発信やイベントの参加に力を入れた。クリティカルシンキングの研修(ワークショップ形式)を教員向けに行い、他校教員も参加した。 ・SSH第4期の申請が決定した
<学校教育自己診断について> ・授業に関して、生徒の肯定的回答は昨年より上がった ・課題の量については適切だとする回答は71.8%であったものの、個人的な意見では「多すぎる」というものもいくつかあった。 ・担任以外に相談する教員等がいるという回答は大幅に改善した
(委員)異学年交流のような例は大切。ロールモデルを見ることができる。同学年の中では力を発揮しづらい生徒も、下の学年に対しては力を発揮できる例もある (委員)中学時代にコロナの影響を受けて進学してきた生徒の様子は? (回答)部活の中でもうまくいかなかつたときへの対処ができる生徒が減っている。また、先輩後輩との関わりが希薄に感じる。中学校で対人関係においてコミュニケーションを学ぶ機会が少なかつた生徒が増えていると感じる (委員)65分授業では、ちょっとゆとりを持って取り組めるようなことがあってもいい。先行事例を参考に (委員)先生方の仕事量が多岐にわたる中、アンケート結果を見れば生徒の満足度は高いと感じる (委員)観点別評価について学校はどう取り組んできたか (回答)観点別評価については学校全体で情報を共有しながら進めてきた。3観点の評価が1:1:1というのが厳しいという意見は今もある。
<令和6年度 学校経営計画について> ・スクールミッション、スクールポリシーを策定した。ミッションについては令和7年度から ・働き方改革について、クラブ活動の時間などを見直すように工夫を迫られているが、職員数や予算の面からもかなり厳しい状況 ・一人一台端末に加え、全教室電子黒板になる ・すべての教育活動を通して子どもを育てていくキャリア教育の拡充 (委員)豊中市の小中学校では学用品の無償化によって、今までできていた教育活動が逆に制限されてしまうことも起きている。 (委員)大阪は私学の無償化の中、公立は新たな特色を求められる。

次回の会議日程
日時 未定
会場 大阪府立豊中高等学校 校長室